

患者：松本 正 59歳 小学校教員 妻：松本 敏子 57歳 主婦

場面設定

救急外来。意識障害にて救急車で搬送されてきた。担当医から状況を聞いてくるようにいわれ、妻から話を聞くことになった。なお、患者は担当医が処置しており、あなたはある程度話を聞く余裕はある。救急車からの情報では、血圧 126/74 mmHg、HR 74 回/分、意識レベルは III-100 であった。

現病歴

5 日前から風邪気味だったが、仕事に行っていた。今朝起きたときに頭痛がひどく、元気もなかったので学校を休むことにして寝ていた。熱も 38.4 度あり、朝ご飯もほとんど手をつけなかった。朝食の後かたづけをしてから寝室をのぞいて声をかけたが、呼びかけても生返事をするばかりではっきりした答えは返ってこなかった。眠っているのだろうと思いそのままにしていたが、洗濯物を干してからもう一度寝室に行ってみると、枕元に嘔吐しており、どんなに呼びかけても返事をしないため、あわてて救急車を呼んだ。

既往歴

12 年前、虫垂炎で手術。

嗜好品

タバコはすわない。アルコール ビール 1 本/日。

家族歴

特記事項なし。

家族

妻と二人暮らし 息子 28 歳は独立して別居。

患者背景

性格（本人）：真面目で几帳面。

職場環境(本人): 4 月編成替えで 5 年生の担任となった。教職最後の担任。責任感強く仕事熱心。

生活環境：マイホームローンはあと 5 年残っている。家庭では特に問題はなく、休日は二人で映画を見に行くことも多い。

解釈モデル

今まで健康だったので、救急車を呼ぶ事態になってかなり気が動転している。もっと早く医者に行くように言えばよかった、今朝もう少し自分が注意していれば朝の時点で治療できたかもしれない、と言う自責の念でいっぱいである。

.....

診断

細菌性髄膜炎

患者：松本 正 59歳 小学校教員 妻：松本 敏子 57歳 主婦

場面設定

救急外来。意識障害にて救急車で搬送されてきた。担当医から状況を聞いてくるようにいわれ、妻から話を聞くことになった。なお、患者は担当医が処置しており、あなたはある程度話を聞く余裕はある。救急車からの情報では、血圧 126/74 mmHg、HR 74 回/分、意識レベルは III-100 であった。

MEMO